

# 『上絵具による色絵付について』

## 1. 上絵具とは

上絵具は、通常 700～800 度で焼成して焼き付ける色素と融剤の結合物からなる絵具です。本焼きによる釉薬と上絵具は同一物ではありませんから、冷熱によってガラス自体に起こる収縮の率が違います。その収縮の程度の違う二つのガラスを固く密着させる為には、両方のガラスの性質をよく把握してください。

そして、上絵具は釉薬上に彩色し焼成することにより、絵具の厚みや釉薬の色調により発色が変わります。厚みと発色の関係、又、厚みの限界、釉薬との相性などを考慮して作業して下さい。

## 2. 上絵具の種類

上絵具は下記のような種類があります。各種特有の性質・溶融温度が有りますので、使用用途を把握して選択してください。

- (1) 上絵具(従来型)・・・絵具の筆下り光沢も良く、非常に使い勝手の良い絵具です。中に鉛化合物を含んでいますので、食器や唇が直接触れる所には使用しないで下さい。焼成温度は 700～750 度です。
- (2) 耐酸上絵具・・・・鉛化合物を含んでいますが完全溶融焼成後の耐酸性が高く鉛の溶出が少なく基準値をクリヤーできる絵具です。安心して食器の内面にも使用できます。焼成温度は 750～800 度です。
- (3) 無鉛上絵具・・・・鉛化合物を含んでいません。但し筆下りが悪い事と、焼成温度が従来の上絵具より高いので注意して下さい。  
焼成温度は 820～900 度です。

## 3. 上絵具の溶き方

### (1) 水溶き

乾燥粉末の上絵具を乳鉢で良くほぐし、にかわ液(50倍水溶液)アラビヤ糊水溶液(濃度1%)を少しずつ加えながらペースト状に練り、再度、水溶液を少しずつ加えながら書き易い状態まで摺り上げて下さい。

乾燥粉末の上絵具を乳鉢で良くほぐし、にかわ液(20倍水溶液)水溶性メジウムを少しずつ加えながら団子状に、そしてペースト状に練り、次に水を少しずつ加えながら書き易い状態まで摺り上げて下さい。

乾燥粉末の上絵具とアラビヤガム粉末(絵具重量の0.5～1%)を乳鉢で混ぜ、水を少しずつ加えながらペースト状に練り、再度、水を少しずつ加えながら書き易い状態まで摺り上げて下さい。

### (2) 油溶き

油溶きは、にかわなど水溶性糊の代わりに油性の白ワニス・コパイババルサム油などで練り、テルピン油など加えながら書き易い状態まで摺り上げて下さい。

使用後の道具・筆などは当然、テルピン油など油で後始末をする事を忘れないで下さい。

## 4. 和絵具(従来型・耐酸・無鉛)について

光沢の良い透明性の鮮やかな色彩は、和絵具独特のものです。用途により、従来型・耐酸・無鉛を使い分けて下さい。

通常はふのり液で調整し、骨書きには犬山黒・艶消黒などを用い、にかわを良く効かせて使用します。但し、和絵具をのせる際に乾燥定着している骨書きが動くことがありますので気を付けて下さい。

上絵付けの二度焼きが可能な環境条件なら、一度、艶消黒で骨書きを行い焼成し、その後で和絵具で彩色し融着させるための二度目の焼成を行う方法もあります。但し、焼成温度の設定をよく考える必要があります。